

地質サイトカード

カードNo.		A-①-9		通しNo.		9		作成日		2025/4/28		
サイト名		みつかいがん せいこんかせき 御津海岸の生痕化石										
基本情報	エリア	島根半島 探訪サイト										
	区分	☒ 地質・地形		☒ 生態		☒ 文化						
	利用価値	☒ 科学		☒ 教育		☐ 観光・ツアー						
	所在地	松江市鹿島町御津										
	アクセス	松江だんだん道路川津ICから約14km、約20分。										
	周辺施設	☒ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(浜辺のトイレ付近に2台程度) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☐ 観光施設()										
	看板整備	鹿島公民館によりH29年ジオサイト看板に相当する看板が海浜に設置された。										
	留意点											
		位置情報		d-2								
保護・保全	法規制・関連団体等											
	保全メモ											
サイトの解説	みどころ		泥質岩から砂岩泥岩互層の発達過程。									
	地質・地形		御津の海岸は、波によって岩石が侵食されて、平坦になっている(波食棚)。波食棚に見られる地層は主に黒い色をした泥岩からできている。この地層は今から約1600万年前の新生代新第三紀中新世という地質時代に、深い海底に泥が堆積したものである。黒色泥岩には、深い海に生息したペッカムニシキやタテイワツキヒのような体長約1 cmの小さな二枚貝化石やウニの化石などを見つけることができる。また、生痕化石(せいこんかせき)とよばれる筒状の細長い形や枝のような形をした巣穴化石も見ることができる。巣穴を作った生物は化石として残っていないが、カニやエビの仲間の巣穴だと推測されている。波食棚の中央付近のクリーム色のザラザラした薄い凝灰質砂岩層の周りによく見られる。									
	歴史・文化 生物・生態 等		『出雲国風土記』では、島根郡の加賀郷の内に含まれる。同書の浜・島の項に、御津浜と港の西にある小島が三(みつ)嶋として登場している。御津浜は広さ二百八歩あり。百姓(たみ)の家あり。とあり、当時は広さが370メートルあまりあったことが分かる。また、すでに居住者があったのである。 さらに、この北の海に捕らえる物として、マグロ、フグ、サメ、イカ、タコ、アワビ、サザエ、ハマグリなどやウニやカメノテ、海苔やテングサなどが上げられており、海産物が豊かであったこともわかる。									
写真・図等												
		大芦へ向かう道から見下ろす					近くから見た様子					
参考文献												